

「125周年を迎えて」



YOSHIZUMI NEZU

取締役会長
根津嘉澄

東武鉄道は2022年11月1日に、創立125周年を迎えることができました。これもひとえにお客様、株主様をはじめとする多くの皆様のご支援のたまものと、深く感謝いたしますとともに、厚く御礼申し上げます。

当社は1897年の創業以来、関東1都4県に路線網を拡げ、今日では463.3kmの鉄路をもって関東圏の交通動脈を担う鉄道会社へと成長いたしました。また、鉄道事業を主軸としつつ、レジャー事業、不動産事業、流通事業など、その時々の方勢や人々のライフスタイルに合わせた生活サービス事業の展開を進めてまいりました。

この25年はバブル崩壊の余韻の残る厳しい時代に始まり、東日本大震災などの難局を乗り越えながら、東武グループのさらなる成長と飛躍を目指し、事業を推進してまいりました。2012年5月22日には世界一の高さを誇る自立式電波塔「東京スカイツリー」を擁する「東京スカイツリータウン」を開業いたしました。その後も約半世紀ぶりのSLの復活運転や33年ぶりのフラッグシップ特急「スペーシア X」の運行開始、様々な商業施設やホテルの開業など、多くの皆様にご愛顧いただいております。

2023年には都筑社長が就任し、当社は新しいステージを迎えました。引き続き、既存事業の深耕を図りながら新たな事業領域の拡大にも挑んでまいります。今後とも東武鉄道、東武グループに変わらぬご支援、ご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

「発刊にあたって」



YUTAKA TSUZUKI

取締役社長
都筑 豊

東武鉄道は2022年11月1日に創立125周年を迎え、この度、これを記念して『東武鉄道 125周年誌』を発刊いたしました。

小誌では直近の25年を中心に、他の鉄道会社との相互直通運転によるネットワークの拡充、東京スカイツリータウンの開業、沿線の重要な経営資源である日光エリアでの観光戦略など、当社のこれまでの取り組みをご紹介します。

また、「東武グループの未来」をテーマに、現在取り組みを進めている新たな事業の意義や、未来の東武グループの姿について社員自らが語り合う企画なども盛り込みました。

近年、人口減少や価値観の多様化、デジタル技術の急速な発展など、当社を取り巻く事業環境は大きく変化しています。これらの変化を踏まえ、当社は昨年、10年後を見据えた新たな長期経営ビジョン「挑戦と協創で進化させる社会と沿線」を策定しました。

創業以来培ってきた「安全」「安心」を基盤に、このビジョンに基づき事業を推進していくことで、「東武グループの持続的な成長」と「人にやさしく人と地域が共に輝きつづける社会」の実現を目指し、邁進していく所存です。

小誌を通じ、東武鉄道、東武グループの活動へのご理解を深めていただきますとともに、今後とも一層のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。発刊のご挨拶とさせていただきます。